

令和7年度 上下水道局X方針について

■ 局区X方針とは

(概要)

局長・区長等を中心に局・区の経営的課題を自己点検し、変革課題とその解決に向け当該年度の取組事項を定めたもの。

(目的)

- ・局長級職員のリーダーシップ発揮による自律的な変革の推進
- ・局内職員への変革マインドの意識づけ
- ・外部公表による市政変革に関する市民への理解浸透と検討過程の透明性の確保

なお、取組みの進捗によって、抽象的な課題がより具体化した場合等で、課題の追加・変更が必要となれば、進捗等の公表にあわせて、適宜X方針を修正する。

■ 上下水道局X方針について

(1)課題数 全3件

課題領域	Aレベル	Bレベル	Cレベル
課題数	1件	1件	1件
政策分野	上下水道	上下水道	上下水道

Aレベル……行政サービスにおける現場の改善等にかかる課題

B・Cレベル…政策的な変革課題(Cはより広域、将来を見据え、全庁横断的な視点を要する等)

(2)主な課題・取組内容等

・課題A 老朽化に伴う危険個所の早期発見のための新技術の活用(資料1のP3)

- 水道管や下水道管渠の危険個所を早期に発見し、修繕することで、道路陥没等の2次被害を防止するとともに、安全・安心で安定的な上下水道サービスを提供する必要がある。
- 衛星画像とAIを活用した水道管の漏水調査を実施することで、これまで2年間を要していた給水区域全域の調査期間を1年間に短縮し、危険個所の早期発見、効果的な調査を実施する。
- また、下水道管渠の点検調査において、水量が多い場所や硫化水素濃度が高い危険な場所ではドローン等を活用することで、調査員の安全を確保しつつ、効率的に調査を実施し、下水道管渠の健全度の把握、計画的な改築・更新につなげる。

・課題B 株式会社北九州ウォーターサービスとの連携強化(資料1の P4)

○上下水道事業に関する次世代への技術継承等の課題対応のためには、市と一体となって上下水道事業を担う株式会社北九州ウォーターサービスとの更なる連携強化が必要である。

○そのため、R7 年度については、以下の取組みを行う。

- ・公民連携パートナーである政策連携団体に位置づけされた株式会社北九州ウォーターサービスの役割に関する再定義を団体側と協働して行うとともに、その内容を反映した政策連携協定を締結する。
- ・今後市からの受託業務に加え、ウォーターPPP に関する業務などの受託拡大を促していく。また、市と株式会社北九州ウォーターサービスとの人事交流、人材育成等協議を行っていく。

**・課題C 将来にわたる上下水道事業の健全経営やサービス水準の維持(経営環境への対応)
(資料1の P5)**

○収入の減少や施設の老朽化、ベテラン職員の退職などの課題がある中、上下水道事業が独立採算のもと、将来にわたるサービス水準を維持するためには、経営環境に対応した持続可能な運営体制の構築が必要である。

○更なる民間事業者や政策連携団体の活用を含めてどのような運営体制が望ましいか、上下水道事業審議会や議会の議論、国・他都市の動向などを踏まえ、長期的な経営のあり方について検討を行う。

○そのため、R7年度については、以下の取組みを行う。

- ・民間事業者や政策連携団体を活用したウォーターPPP や包括委託などの検討のため、他都市調査、関係部門や政策連携団体との協議などを行う。